

釜ヶ崎越冬 中間報告

キリスト教釜ヶ崎越冬委員会
代表 牧師 金井愛明



越冬朝の炊き出し (1980.1. 中川繁夫さんうつす)

一人の死者も出さな!

一人の死者も出さな!を合言葉に、昨年十二月二十五日、越冬のたたかいはじめ、一か月たきました。おぼろげなわたがれご支援に心からお礼申し上げます。ここに、その間の活動を報告し、なお一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

今年の越冬にあたり、わたしたちは、「釜ヶ崎の病氣」とくに「結核」に力を入れることにしました。はじめの試みで、現在もお試行錯誤をくりかえしつつ、日々の活動をすすめています。釜ヶ崎の日雇労働者にとって最も基本的な「労働」(就労の機会)は、今冬は例年になく恵まれ、ここ四、五年では最高と言われています。しかし、それは、元氣な労働者の場合で、高齢者、病弱者、障害者は、相変わらず仕事にアブレ、青カン(野宿)を余儀なくされています。それでも青カン者は、例年にくらると多少減少し、一月一〇日以降は、二五〇人前後の状況です。理由の一つは、やはり仕事があることです。いま一つは、これまでの行政への働きかけやマスコミの報道などで、行政が重い腰をあげ、病人対策をなした結果です。一月一日〜三日の間に約二〇〇人ちかい労働者が、社会医療センターの努力で、入院あるいは施設に入り、通院治療をはじめられています。

それにもかかわらず、なお一五〇人前後の労働者は、炊き出しにたより、青カンし、日々、死と直面させられています。「一人の死者も出さな!」の合言葉にもかかわらず、わたしたちの目前で、越冬開始以来、五人の労働者がなくなりました。大変残念なことです。いま、炊き出しは、朝(九時)、昼(一時)、夜(七時)の三回行われ、約一五〇人前後の利用があります。

青カンは、一月二三日には、「一六二人」と記録されています。

この状態は、自分なかな打撃でできそうにない感じがしています。

わたしたちは、越冬闘争実行委員会と共同で、毎夜(月・水・金曜日はキリスト教担当)一時から夜間医療パトロールを続けています。

あるいは、医療とくに結核治療についての相談も、月水金曜日の午前中に受けつけています。さらに、入院した労働者の病院訪問もしています(裏面参照)。

念願の結核専門のケースワーカーの入佐明美さん(看護婦)も、去る一月一六日から社会医療センターを拠点に活動をはじめました。うれしいことです(裏面参照)。

ささやかな積み重ねですが、病気の労働者の青カンが一人でも減り、また結核患者がなくなることを願っています。

この願いをこめ、越冬セミナーも医療問題に焦点を合せました。結核を労働者自らが、すすんでなおす契機をつくろうと「結核について」の公開講演会も実施しました。合せて有志の手でハンドブック「困った時のために」ケガ、病氣、生活の早わかりも作り、労働者に配布しました。

わたしたちは、できることなら青カン者がなくなるような働きをしたいと願いつつ、その一つとして医療問題に年間を通じて取り組んでいく所存です。

一月下旬までに寄せられたカンパは四八六万一〇八〇円。フトン、毛布、防寒衣類、また病院訪問用にと石鹸やタオルも多数いただきました。パトロールや炊き出しへの参加は、正直いってもう少しほしいです。

またインドをはじめアジアの各地域で働くキリスト者たちが釜ヶ崎をたずねてください、いろいろと地域活動について教えられたことも感謝します。

みなさんの声援をおぼえつつ、これからも活動をにつづけます。とりあえず感謝とご報告まで。

一九八〇年二月

越冬日録抄

一九七九年冬

- 一〇月六日 一九七九年冬キリスト教釜ヶ崎越冬委員会(以下「越冬委員会」と略)結成。代表・金井愛明、会計・谷安郎、専従者・福田佳昭の各氏を選ぶ。越冬テーマは「釜ヶ崎の病氣」
- 一月七日 大阪市長選を前に新宮・大島両候補に公開質問状「釜ヶ崎の冬について」送付。両候補とも回答に何らの具体策もみられない。
- 一月十一日 一九七九年四月大阪市長に対する大阪社会福祉審議会の「愛隣地区「釜ヶ崎」の福祉対策の今後の進め方に関する答申」について学習会。講師は委員の一人大野寿一氏(大阪市大教授)。
- 一月二十二日 越冬支援の呼びかけ。
- 一月二十八日 越冬委員会決定。以後毎週土曜日七時から約二時間開くことを決定。定例化。
- 一月三〇日 「第五回越冬セミナー」準備委員会開く。セミナーテーマ「釜ヶ崎の医療問題」期間一月一日〜三日。二泊三日。
- 一月二十八日 第十回釜ヶ崎越冬闘争実行委員会結成。同時に越冬支援連絡会も発足。
- 一月二十六日〜一〇日 西成区選出の各党派市議を手わけして訪問。「釜ヶ崎の冬」に対する協力を呼びかける。
- 一月八日 越冬委員会越冬活動の基本を決定。(1)夜間医療パトロール (2)医療相談 (3)病院訪問 (4)炊き出しへのカンパ (5)入所。なお青カン者二二六六人。
- 一月十四日 越冬闘争支援連絡会(於部落解放センター)開かれる。越冬委員会からも参加。午前中、「越冬要望書」をもち大阪市民生局(越冬全般)、西成福祉事務所(行路病・死)、西成消防署(救急車)、市立更生相談所(生活保護)、西成保健所分室(結核対策)の各役所を訪問。
- 一月十六日 キリスト者越冬決起集会をふるさとの家で開く。
- 一月二十四日 第十回釜ヶ崎越冬闘争総決起集会、三角公園で開催。明日からの活動のため夜間医療パトロールの予備調査をする。
- 一月二十五日 越冬闘争はじまる。炊き出し利用者一七二人(朝47人昼54人夜71人)、青カン者一六〇人。
- 一月二十九日〜三〇日 大阪市臨時宿泊所受付。約三〇〇人入所。なお青カン者二二六六人。
- 一月三十一日 「希望の家」家来。中間報告集会(於市民館)。
- 一月十六日 入佐明美さん、釜ヶ崎での活動はじまる。
- 一月二十三日 越冬実、越冬闘争中間報告集会(於市民館)。

入佐明美さんの活動が はじまりました

入佐さんの活動が、去る一月一六日から社会医療センターを拠点にはじまりました。入佐さんの活動を報道した朝日新聞（一九七九年一月一六日）をここに紹介します。

79年(昭和54年)12月6日 水曜日 第何号



私のネハールは
あいらん

各科医師に共鳴の看護婦

**結核患者に献身
新春から保健婦で**

入佐明美さんは、大阪府下大東市、野上病院（和歌山県海南市）などにあり、そこに加えて、外科、内科、精神科関係の病院があります。

カトリック修道会のシスターたちが精力的にたずねていますが、すくない人数で広範囲の病院をまわることが大変困難です。「月に一度」と計画をたて実行するのが精一杯の現状です。

わたしたちは、年間を通じてこの活動を続けていきたいので、一人でも多くの手を必要とします。また、一緒に訪問することで、釜ヶ崎の労働者がかかえている問題を少しずつではありますが、理解できると考えます。

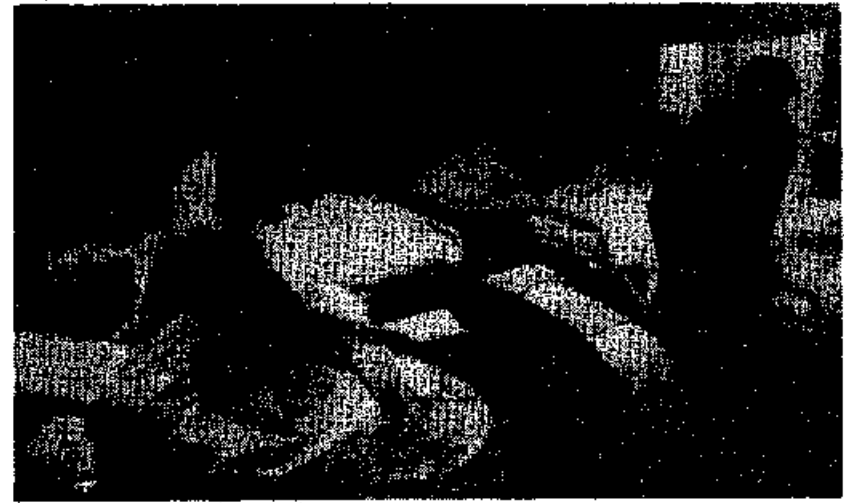
「喜望の家娯楽室」の協力で図書の借出しも始めました。「三二一冊の図書目録」も既に完成し、患者さんにも配布していますが、月に一度の訪問では、気が抜けたような結果になります。せめて「月に二度」ぐらいまでに増したいと願っています。ぜひ、ご協力ください。

病院訪問から

ここ数年、わたしたちは越冬と前後して、釜ヶ崎からの入院患者の病院訪問を続けてきました。

病院訪問は、釜ヶ崎の単身労働者にとっては、大切な活動です。一つは、本人の闘病生活を上げます。家族のように行きとどいたことはできなくとも、話し相手になったり、一寸した身のまわりのことが手伝えます。あるいは本人にかわって病院に対して医療や生活のことで話し合うことも出来ます。とくにこれは、長期入院治療を要する結核患者には欠かせません。

この越冬でも、既に一〇〇人を越える労働者が入院生活をはじめています。結核患者は半数を越えています。たとえば、わたしたちが訪問する結核病院だけでも、丸山病院（神戸市）、大阪円生病院（大阪市）、相原第二病院（大阪市）、有沢第二病院（大阪府下枚方市）、島田病院・羽曳野病院（大阪府下羽曳野市）、広崎病院（大阪府



結核患者訪問 (1980. 1. 5)

アピール

- 目標の六百万円まで、あと一歩です。
- 病院訪問にボランティアを！
- パトロール・炊き出しに参加を！
- 年間を通じて入佐明美さんを応援しよう！

越冬支援連絡とカンパ送り先

大阪市西成区萩ノ茶屋二一八一—一八
喜望の家内
キリスト教釜ヶ崎越冬委員会
電話 大阪(〇六)六四七—三九四六
郵便振替口座 大阪五〇三八五

●キリスト教釜ヶ崎越冬委員会・代表 金中愛明(カトリック聖フランシスコ会・カトリック愛徳姉妹会)
カトリック守護の天使修道会・社会福祉法人暁光会大阪支部・日本福音ルーテル教会・日本キリスト教団
この家・釜ヶ崎地域問題研究会・関西キリスト教都市産業問題協議会